Economic Indicators

発表日：2024 年 1 月 11 日（木）

景気動向指数（2023 年 11 月）

～牽引役不在で回復感に欠ける動きが続く～

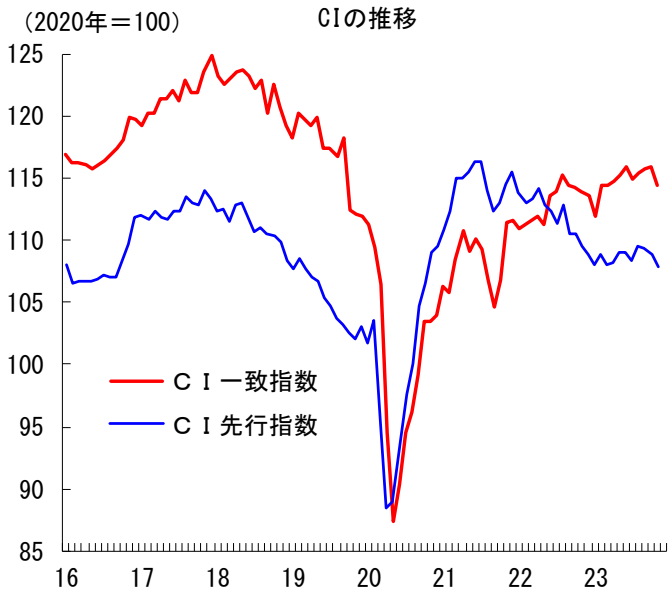
第一生命経済研究所
シニアエグゼクティブエコノミスト　新家　義貴
（TEL：050-5474-7490）

４か月ぶりの低下で、過去の上昇分を帳消しに

内閣府から公表された 2023 年 11 月の景気動向指数では、ＣＩ一致指数が前月差▲1.4 ポイントと４か月ぶりの低下となった。低下幅も大きく、過去３ヶ月の上昇分（８月：＋0.5 ポイント、９月：＋0.3 ポイント、10 月：＋0.2 ポイント）を帳消しにする形となっている。均してみれば緩やかな改善傾向とは言えるが、上昇ペースは極めて鈍く、回復感に欠ける状態が続いている。

11 月の内訳では、輸出数量指数や投資財出荷指数、鉱工業生産指数など、輸出・生産関連のマイナス寄与が大きかった。

ＣＩ一致指数の基調判断は８ヶ月連続で「改善」となった。11 月のＣＩ一致指数は低下し、３ヶ月移動平均前月差も▲0.30 とマイナスに転じたものの、「足踏み」への下方修正基準を満たすほどではなかった。後述のとおり来月は上昇が見込まれることもあり、下方修正は回避されるだろう。当面「改善」判断が続く可能性が高い。



（出所）内閣府「景気動向指数」

先行きも回復感に欠ける動きが継続する公算大

先行きのＣＩ一致指数については、伸び悩む可能性が高いとみている。ＣＩ一致指数と関連が深い鉱工業指数をみると、経済産業省による補正値ベースで 12 月は前月比＋3.2％と上昇が見込まれているものの、24 年１月には低下が予想されるなど、一進一退の域を出ていない。その先についても、ＩＴ関連財の在庫調整が進捗しているといった好材料はあるものの、海外経済の減速が先行き見込まれるなか、輸出は伸び悩むことが予想され、生産活動に力強さが出てくる展開は見込み難い。物価高の悪影響もあって個人消費に停滞感が出ていることも懸念材料だ。内外需とも冴えず、牽引役不在の状況のなか、ＣＩ一致指数は当面、回復感に欠ける動きが続く可能性が高い。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。